

広報

どうし

道志村民憲章

私たちの七里は、緑と清流と歴史の郷です。この地に生きること誇りをもち、平和な村を築くため、ここに憲章を定めます。

私たちは

- 一、自然を愛し平和な村をつくれます。
- 一、生産に励み豊かな村をつくれます。
- 一、伝統を重んじ、教養を高め文化の村をつくれます。
- 一、人情といたわりの心を養い、福祉の村をつくれます。
- 一、明るく健康で、活力ある村をつくれます。

2002 March 3月号



椿大橋から眺めた富士山

平成14年度

公益信託道志水源基金募集 !!

一、助成対象者及び応募資格
山梨県南都留郡道志村内において営利を目的とする事業を行わない法人又は団体とする。(活動を行うにあたり対価を求めない団体)

二、助成対象事業

道志村における自然環境の保全活動及び整備活動に対する助成金の給付
・森林に関する活動・道志川に関する活動・環境汚染防止活動・啓発活動
道志村民の生活基盤向上に資する活動に対する助成金の給付
・総合的な企画、活動・観光イベントの企画、活動・観光資源の発掘と整備
・伝統芸能及び伝統技術の保存と維持活動・生活基盤の整備活動・産業振興活動

助成金の総額
本年度の助成金総額は一、三〇〇万円の予定。

応募方法
当基金所定の「助成金支給申請書及び事業計画書」に必要事項を記入し、所定の期日までに当基金に提出する。

応募期限
平成十四年三月二十九日(金)

選考の方法
公益信託 道志水源基金運営委員会の審議により、受給者及び助成金額を決定する。

助成金の給付
平成十四年六月以降に受給者に対し、銀行振込により給付する。

報告書の提出

受給者は、毎年度助成の対象となった事項に係わる報告書を当基金に提出する。
募集の窓口

道志村役場道志水源基金事務局(担当山口)
電話〇五五四(五二)二二二一
三菱信託銀行個人資産相談部公益信託推進室(担当稲村)
電話〇三(三二二)一三二一
内線・三二七一

申請書提出先

〒四〇二 〇二〇〇
山梨県南都留郡道志村六一八一 一
道志村役場道志水源基金事務局



運営委員会

「道の駅どうし」からお知らせ

農林産物・加工品等の
出品物を募集しております

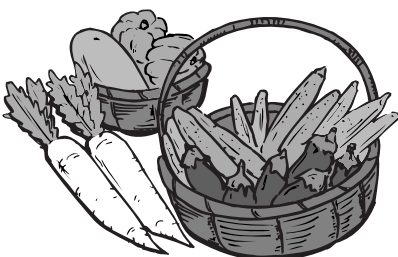
『道の駅どうし』は、平成十一年四月にオープンして以来、地元農家の皆さんをはじめ、出品者の皆さんのご協力を頂き、道志の農産物・加工品などを販売しております。

道の駅特産品直売所は、地元皆さんの農産物・手工芸品・特産品等を販売し、村の産業振興と住民所得の向上を図る事が目的です。どうぞ、出品の予定のある方々は道の駅までご連絡下さい。

詳しくは、道の駅どうし

TEL五二一 一八一 一

店長 山口まで



認めて、ほめて、育てよう 若者たちの良いところ

若者たちのプラスの側面に もっと目を向けよう

「近ごろの子どもは…」という偏見や固定観念で、すべての青少年を見ていませんか。問題行動や非行など、青少年をめぐる問題は少なくありませんが、一人一人をみれば、それぞれ個性的で長所もあり、頑張っている青少年のほうが多いのです。青少年たちの良い側面にも、もっと目を向けてみませんか。

家族のつながりを 大切にする傾向がある



青少年に関するさまざまな問題を背景に、家庭での親子のコミュニケーションの重要性が指摘されています。母親や父親との会話の頻度は、「父親と非常によく話す」が一八・五%、「母親と非常によく話す」が四一・二%です。この質問項目は、

情報メディア型の青少年は 社会参加にも積極的



昭和四十五年度から五年ごとに実施する「青少年の連帯感などに関する調査」でも聞いていますが、調査実施ごとに増えています。また、休日に家族と過ごす小中学生も増えており、家族とのつながりを大切にしているという結果がうかがわれます。

休日などにインターネットや電子メールを利用する情報メディア型の青少年は、消費文化にも参加する余暇活動の活発な層であり、社会問題への関心や地域への社会参加は高いという結果が出ています。インターネットなどに没頭する若者は社会問題などに無関心であると思われるがちですが、むしろ逆で、情報メディアの利用によって、視野を広め、社会問題への認識を高めている若者が多いようです。

消費文化的な青少年は 努力や能力、 実績を重んじる



消費文化(注)に多く参加する青少年ほど、私生活を大事にしながら、やりがいのある仕事や自分のやりたい仕事を求め、そのために努力することの評価する前向きな面があります。

(注)ここでの消費文化とは、買い物や映画・スポーツ鑑賞・ゲームセンター、カラオケ、旅行など、家庭や学校以外の消費的な場に出ていく余暇活動を意味しています。

また、仕事での評価は、肩書きではなく、能力や実績で評価されたいと考えているようです。

協力し尊重し合う 共生社会を 志向する青少年もいる



自国と他国、女性と男性、強者と弱者が互いの違いや能力差を乗り越えて、共に生きていくことを志向する青少年も、全体の約二割と少数派ながら存在します。共生社会志向の強い青少年は、そうでない青少年よりも日本が抱えている問題が多いと認識しており、大量生産・大量消費を競い合う競争社会ではなく、互いにいたわり、協力し、慎ましく生きていくという新しい生活価値観をもっています。そうした青少年たちは、共生社会を先取りする生き方を実践しはじめていることがうかがわれます。

中学生「税についての作文」において大月税務署長を受賞

大月税務署管内貯蓄組合連合会では、毎年管内中学の生徒から税についての作文を募集しており十三年度も、二十一校が応募されました。

道志中学校も応募され、三年の半田貴子さんが審査の結果大月税務署長賞を受賞されました。
半田貴子さんの「生活を支える税金」作文を紹介いたします。

「生活を支える税金」

道志中学校三年 半田 貴子



私の学校では「多民族社会を実際に見聞し体験することを通して国際的視野を形成する」という目的で、修

学旅行でオーストラリアへ行った。

それは村の国際交流事業計画の一環で生徒一人一人に多額の補助金を与えてくれた。補助金は一人につき、およそ二〇万円、すべて税金だ。

修学旅行は、本当にいい経験ができた。特にホームステイでは、オーストラリアの家族の温かさを生で感じた。この思い出は一生忘れないと思う。同時に、私たちは、修学旅行が税金の支えで成り立ったということとを忘れてはいけない。

この修学旅行が実施されるまでには、さまざまな過程があった。春の定例議会で審議し、教育費の中に補助金として計上された。その後、先生方が旅行会社と念入りに計画を立ててオーストラリアへ行けたのである。

そういうことを考えると、私たちは村の代表として、海外でいろいろなることを学習してきたのだと強く思っ。初めて行った地での生活、慣れない英語での会話など貴重な経験をさせてもらった私たちは、とても幸せであって、村民のみなさんの期待に応えるという責任があるような気がする。

修学旅行の補助金以外にも税金は広い分野で私たちの生活を支えている。授業で使う教科書や通学に欠かすことのできないバス代の補助金などの教育費。介護保険などの社会福祉費。健康診断事業の医療費など数えきれない程である。

未来を預る私たちは税金が生活の中で、どれだけ重要なものであるか、しっかりと理解する必要がある。大人になり、働き始めたら私も社会の一員として税金を納めたいと思う。国民全員が安心して生活を送れる未来のために、「納税の義務」をしつかり果たすことのできる大人になりたい。一人一人の力で、明るい未来を築き上げたい。

人材スタッフ

募集中!

道志村役場では十四年度観光施設の営業形態を無休とする為に事務及び接客業等に従事して頂ける意欲と行動力のある若人を募集しています。



募集区分

【常勤職員】一名

勤務場所
道の駅どうし
職務内容
営業・販売・管理・運営等
勤務日
毎週月曜日～日曜日
ただし週休二日になるようにシフトをくむ
八時三〇分～六時（夏は七時）
給与待遇
道志村臨時職員取扱要綱による

【パート職員】一名

勤務場所
道志水源の森
職務内容
飲食物の調理・加工・接客等
勤務日
勤務できる日及び勤務時間等は双方で決定する
給与待遇
道志村臨時職員取扱要綱による

右記の募集区分に従って三月十五日までに応募してください。

問い合わせ先 道志村役場産業観光課

電話 五二二二二二（内線 一七・一八）



釜淵の乙姫様

民話にみる道志の人

この民話は、湯本地区に伝わるものである。あら筋を紹介します。

昔湯本に宗平という爺さんがおつた。ある日釜淵へ行って櫂の枝打ち

をしてしていると、手元がくるって手斧を淵へ飛び込んだ。手斧を探している

と、爺さんの前へ手斧を持った乙姫様が現れた。乙姫様は「面白い話を

してくれ」と爺さんにせがむ。話の得意な爺さんが、ご馳走になりながら面白い話をして

いる内に三日が過ぎた。帰るとき乙姫様は話のお礼にと、機で織るときに使う糸の管を爺

さんにあげた。家に帰ってみると、爺さんの三回忌の法事をして

いた。法事はお祝いの宴席となった。乙姫様からもらった糸で機を織

ってみると、立派な反物になる。しかも一日織っても、二日織つても、糸は

少しも減らない。この事が近所の評判になった。爺さんから口止めされ

ていた乙姫様の「糸の秘密」を、婆さんは、うっかりしゃべってしま

った。すると、糸は跡形もなく消え、

釜淵からは、鶏に似た不思議な鳥が飛び立って、湯本の家畜を悉くさらって行ってしまった。それから、湯本では鶏は飼わないという。

湯本に伝わる長編で整った話である。浦島太郎の昔話によく似ている。

しかし、宗平さんが家に帰って白髪の爺さんになるのではなく、至って元氣だし、むしろ、良い機が織れて

「富をもたらす」事は浦島太郎と対照的である。宗平爺さんが的確な判断に基づいて行動し、澆刺とした姿

で生き生きと描かれている。元気に櫂の枝打ち「口勇猛果敢に手斧

を探しに淵の中へ飛び込む」得意な話術で乙姫様を魅了する。道志

の人の生意に満ちて、精悍に生きる様が心地よく語られ、展開される。

この話にも「鶏を飼ってはいけない」という戒めがある。地域に災い

をもたらすからであるという。「どうしてか」「糸の秘密」・「鳥が家畜

をさらったのはどうしてだろつか」等々、考えてみると、不思議いっぱ

いの民話であると思います。

村史「道志七里」を道志村へ寄贈

教育長 山口俣徳氏より

村史「道志七里」は、昭和二十八年に発行されたもので、現在は数少ない貴重な村の歴史資料であります。

道志村役場においても、「道志七里」が無いことから、村内は元より郷土史研究者あるいは大学の歴史研究会からの問い合わせが増えておりその対応等に不便をきたし、苦慮しておりました。

この度、教育長 山口俣徳さんから村の窮状を理解され、快く貴重な「道志七里」を寄贈して戴きました。

村では、早速「道志七里」の活用方策を検討したところ、寄贈を機会に「道志七里」データ化事業としてCD-ROMでの管理と活用を図っていくこととなりました。

そして、教育委員会、小中学校、ギャラリー水源の森にも配付して有効に活用していく予定です。

なお、「道志七里」は役場企画課広聴広報係で保管しておりますのでご利用願います。